

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・まごころ」で日々職員は接し、利用者は希望や思いがかなえられ、「笑顔・満足」で日々過ごせるよう心がけている。	開所当初からの介護理念である「笑顔」「満足」「まごころ」を掲げ、利用者、家族の尊厳と権利を守りながら、地域とのふれ合いを大切にサービスを目指している。日常のサービス場面等では職員間で声を掛け合い確認し合ったり、職員会議の場でも、管理者と職員が理念を共有することで実践に繋がられるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市報や祭りの案内状が配られたり、通りがかりの人とあいさつを交わしたり、登下校の子供たちに声を掛けたりしている。近所の方が草取りや、収穫した野菜を持ってきてくれます。	町内会に加入していることで、区長を通じ配布物等が届き、地域の祭りに参加させてもらったりしており、徐々に地域に受け入れられて来ている様子が窺える。四季を通じた花壇作りや草取りのボランティアが来られたり、時には野菜の差し入れもある。テラスから登下校時の子供達と声を掛け合うのが楽しい日課となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習やボランティアが増えました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員の方々が夏のホーム行事で盆踊りを盛り上げて下さった。	利用者、家族の代表者、市福祉課、包括支援センターの担当者、区長や地域の関係者等が参加メンバーとなり定期的に開催されている。現況報告を行うと共に、参加メンバーからの意見、要望や地域情報を受けて、サービス向上に具体的に活かしていけるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議などに参加し、情報交換や研修を行っている。また、地域密着型サービス区分の会議には悩みなど解決に向けた手立てが得られる。	市が主催する「地域ケア会議」「地域密着型サービス区分会議」が定例化されており、情報交換や悩みの解決策に繋がる話し合いの場となっている。市の関係者や他の事業所との連携など協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、周知されている。また、身体拘束をしないケアを目指している。	現在、身体拘束をしないケアが実践されている。時期、時間によって不穏な状態になる利用者には、職員の連係プレーで寄り添うことで、落ち着く方向に導いている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内外の研修により、学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、虐待に当たるような対応とは何か、折にふれ、確認したり、未然に防止できるよう、日々の対応に職員同士注意し合ったりしている。	不適切と思われるケアについては職員同士がその場で注意喚起し合い、虐待の未然防止に努めている。前項目と合わせて年間を通じて、内外の研修に参加して学ぶ機会が設けられている。しかし、参加した職員の伝達報告研修は実施されているが、報告書の整備がされていない現状がある。	今後は研修会等に参加した職員一人ひとりの会得した感想を踏まえた報告書の整備、さらには全職員への回覧、管理者のコメントがフィードバックされる等、学びの積み上げとなるシステムの構築が期待される。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方に対して支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明・理解を図るように努めている。 改定時には、説明文書や同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に、余興ボランティアの紹介や昔話の本を頂いたり、生活をより楽しめる工夫や方法をもらっている。入居者や家族の面会時などに要望や意見を聞かせてもらうこともある。	運営推進会議に参加された家族代表から前向きな意見、要望を伺ったり、面会に来られた家族には近況を話して何でも言ってもらえるような雰囲気作りに配慮している。出された意見、要望等については、職員間で話し合って運営に反映させるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議の後の常勤会議を開催し、2つの事業所と代表者が集まり、職員の意見や提案を聞いてもらう機会があるのでその場で、すぐに改善あるいは、対応が得られる。	定例の職員会議、同系列の事業所職員と合同で常勤会議が開催されている。その中で活発な職員意見や提案が出され、同席している代表者からも聞いてもらい検討し合うことができ、すぐに改善の方向に進められるよう反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が資格取得や講習会や研修会などの参加に声をかけ、働く意欲につなげていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加したら資料など、回覧し、職員が情報共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3魚沼GH連絡会があり、意見交換会や情報収集に役立てている。年1回ではあるが合同研修会も開催されている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入に不安・心配を受け止め、安心につなげられるよう理解を求めながら関係づくりをしている。またいつでも聞ける体制ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談に来られた際、心配事や要望等を聞いたり、本人と面談させてもらい状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族等の実情や要望を聞き、事業所でできる事を見極め、何が 필요한かを見極める手立てとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、特に食事の準備などは、昔から携わってこられているので参加をお願いしている。また思いや不安を聞き、その方を深く知る事に努めている。職員の心配事や悩みも聞いてくれて、励ましてもらうこともある。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報を得ながら、お互いのできる支援を考え、面会時には、ご本人の様子などをこまめに伝えたりして必要な物や必要なことなど了解を得て用意してもらうなど、できることから取り組んでいくようにしている。	頻繁に面会や行事へ参加される家族とは連携も取れており、共に支え合う体制が築かれている。一方、疎遠な家族との連携に苦慮している現状がある。	職員はあくまでも本人と家族の支援者である。今後は家族が疎遠だから仕方がないと諦めていないかなどを職員間で振り返り、何らかの形で家族も関われる場面や機会作りのアイデアを出し合い、本人と家族との繋がりが深められる関係づくりが期待される。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や、久しい方の面会がされており、地域の話や、懐かしい話にもふれ、関係性の継続が保たれている。	地元の利用者が大半であるため、地元で暮らす馴染みの親戚、知人、友人等が入所を知り来訪される方や、本人の希望があれば自宅へ寄せてもらうこともある。馴染みの方々が気楽に立ち寄ってもらえる環境作りに力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場や雰囲気に応じて、関わりが有効となるような、仲立ちに務めている。また入居者同士の思いやりや、優しい言葉かけが聞かれたりするので、そういう場面を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者には、本人様の情報をできるだけ詳しく伝えたり、その後の様子についても聞かせてもらったりしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い、希望、要望等が明確に話して下さるので把握しやすい。困難な人には、日常の会話の中や繰り返し発せられた言葉や話を大切に職員が共有し、検討したりしている。	事業所では温かな雰囲気の中で自分の思いや希望、願いなどをスタッフに伝えてくれる利用者が多い。また困難と思われる人は日々の何気ない会話やしぐさから感じ取ったり、入浴時に出る本音と思われる言葉を大切にし職員間で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは、サービス担当者や家族から情報を得ていることを共有し、プライバシーに配慮しながら生活の中で取り入れたりしている。生活歴や情報をあまり得られない人でも、サービスを使っていく中で、気づくことが多い。	入居前に本人・家族・担当ケアマネージャーより、これまでの生活歴や暮らしぶり等の情報を得ている。入居後においては、日々の関わりの中で感じたことをスタッフ会議等で協議することで情報の共有を図っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできる力を理解し、それを役割としたり、継続的にやってもらったりし、その際、感謝の気持ちを言葉に表すことを職員が心がけている。心理精神面において、不穏になる方には、働きかけの方法を試行錯誤しながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや意向を聞きながら、状態変化に合わせ、職員は出来ることから、始められるよう話し合いを持ち、作成見直しをしている。	より良い暮らしの継続ができるよう本人の思いや家族の思いを聞きながら介護計画に反映させている。健康状態に変化が生じた時は現状に即した介護計画を作成している。見直し時期においては、できるだけ本人・家族から日頃の思いや新たな要望などを確認し、一方通行にならないよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の情報を、変化のあった時はすぐに見直し、共有したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族等の思いに柔軟に、また状況に応じて通院、送迎等できるだけ対応している。必要な物なども家族ができないときは代行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の福祉体験学習の訪問があったり近所のコンビニへ買い物に出かけたりしている。地域のボランティアからも余興や祭りの神輿などに来てもらい、楽しみや張り合いになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決まっている方には、事前に聞いておいたり、都度聞いたりしながら、希望のところへ受診している。また、訪問診療の場合もある。	本人・家族の希望するかかりつけ医を基本としているが、家族が都合のつかない時は職員が同行し受診対応している。緊急時には訪問診療も受けられるため、本人・家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さい気づきや心配なことは共有し、体調変化等あれば、訪問看護に報告し、指示が受けられる。協力医師へのスムーズなパイプ役となってもらっている。共に安心が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	変化のあった時はもちろん、連絡を取り合い、病状把握や変化があった時などの情報を得られるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、本人、家族等からの意向確認を取りつつある。、意向の変更についても思いや変化に対応できるよう説明している。	現在、まだ重度化・終末期の看取りの方針が明確に整備されていないが、既に訪問看護等を受けていること、緊急時においては訪問診療も可能となっている状況である。また、看取りの研修等も受けたり、一部の家族からは今後の意向等も取り付けている現状にある。	事業所は医療面において、訪問看護や緊急時の訪問診療も可能であることが本人・家族の安心となっている。今後は看取りのあり方についても、「重度化・終末期対応指針」等を更に検討していくことが望まれる。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期で消防署の協力を得て訓練に参加し、体験・習得してもい、その際は出来るだけ全員参加してもらっている。	想定される急変時に対応できるようマニュアルが作成されている。また年1回、12月に消防署の協力のもと、救急法の研修を全職員が受けており、万が一の備えとして実践力を身につけるようにしている。AEDも設置されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月1回の自主消防訓練の他、消防署の立会いのもとに、訓練を年1回実施している。	災害訓練は定期的に消防訓練を実施しているが2階の利用者の非難の仕方が具体化されておらず苦慮している現状がある。また、マニュアル等については整備されてはいるが地域との協力体制が構築されていない現状にあり、今後、運営推進会議等にも広く意見、協力を求める方向に進めている。	万が一の時の備えとして、災害時において事業所内だけでの安全確保には限りがある。近隣との協力体制を地域の拠点として、住民参加型の避難訓練の実現に向けての協力体制の整備が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切することと、馴れ合いとならないように言葉かけにも注意したいと気にかけて対応している。特にトイレ誘導時には配慮しているが時として反省すべき点を感じている。	スタッフ全員が理念である「笑顔・満足・まごころ」を強く意識し、利用者一人ひとりの人格を大切に支援している。時に反省すべきところについては、職員同士注意し合える関係性が出来ていることにより、相手を尊重しプライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いの押しつけにすることなく、その人のできる方法で飲み物やレクリエーションなど自己決定してもらっている。本人の希望を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、柔軟に参加してもらっている。自分のペースで過ごせる人もあれば、そうでない人もいるので、様子をみながら誘いかけや希望を聞いてみたりしてやりたいことに取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着がえなど、個別に合わせた支援や散髪時にも、希望を自分で伝えてもらったりしている。近所の美容室を利用する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや皮むき、味付け、味み、片付けや調理法を聞いたりしながら職員と一緒にできることをやってもらっている。	献立は過去のものも参考にしながら、旬の物や郷土料理なども季節ごとに取り入れている。また食事の準備や片付けにおいては、利用者も一緒に参加することで喜びや達成感を味わっている。また、利用者の中で日々の献立をカレンダーに記録して楽しんでいる人もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや量、その日の体調など情報共有して、次の食事につなげている。管理栄養士による研修も行っている。水分摂取には特に気をつけOSIを訪看より作り方を教えてもらい、不調時あるいは浴後などに飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけや見守り、またはできない方への手伝いなど、把握し、支援している。習慣化されてない方への言葉かけや支援方法に苦労している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツにならないように排泄のリズムをつかむよう情報を集めたりしてその人に合わせたパットの種類や誘導の仕方に配慮している。失敗してもさき気なく、済ませられるように対応している。	排泄はできるだけトイレ使用を基本としている。個々の身体状況に合わせて排泄リズムを把握し、可能な限り個別の排泄支援を大切にしている。深夜においては個々の身体状況を考慮しつつも安眠を基本として睡眠の妨害とならないように対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、運動・果物・乳製品、水分補給など取り入れている。習慣化されてない方への言葉かけや支援方法に苦労している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤も使用したり、季節毎の湯(しょうぶ湯・ゆず湯など)も楽しんでもらっている。	入浴は週3回を基本としているが個々の意向にも沿えるよう努めている。入浴は心も身体もリラックスできる場として、銭湯のような雰囲気を出す工夫がなされている。重度の利用者には職員の工夫により「ネット」を使用し、2人介助で実施することで安心と満足となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや習慣で好きなところで休息・午睡してもらっている。添い寝の必要の方もおり、安心できるような対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース内に服薬に関する(薬局からの)説明書をファイルし、職員が把握できるようにしている。服薬支援は、飲み込みまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の作業や、たたみ物など、その人の力が発揮されるような仕事をお願いしている。職員も参加し、会話したりしている。ねぎらいの言葉がけを忘れないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所や時には、季節感が感じられるところなどにドライブに出かけたりしている。遠方の家族であるが、時々面会時には、自宅のあるところへ付き添って外出される方もある。	日常の忙しさから個々の思いや寄り添う時間の不足の問題点を「気軽に外出する」という対応で、管理者・職員の意識の変化により克服できおり、今年の頑張りを窺うことができる。次なる取り組みとしてさまざまなボランティアを受け入れたり社会資源の導入などに目が向けられている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持っており、買い物した時、支払いされる人もいる。個人によって事情あるため、所持している人の方が少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキ・贈り物が届き、礼状を書いたり、お礼の電話、時には声が聞きたくなったといわれる方に、家族や親せきとやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンに関しては好みがあるため、風の当たらない工夫をしたりしている。テレビの音量について共有のスペースでは難しい。壁面飾り等でも季節を感じてもらえるようにしている。温度、湿度には配慮し、こまめに調節したり気にかけている。	共用スペースは周囲に大きな建物もないため、十分に自然の明かりを取り込める空間環境となっている。また、南側に面して広いテラスが設置されており、天候の良い日にはゆったりと寛げる場所となっている。ホールから居室に続く廊下では整理整頓され、安心して過ごせるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小集団の中にも、自分の思いを職員が汲み取れるよう配慮している。積極的にゴミ捨てをして下さる方がいていつも空のきれいなゴミ箱があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋という安心感や、お花好きの方には、庭で摘んだ草花や家族や親せきの方々の写真などが飾られ、自分好みにアレンジしたりできるようにしている。	居室は備え付けのベッド・タンスの他にも利用者の希望で家具の持ち込み等が可能となっている。また、思い思いの若い頃の写真や過去を思い出す品々が飾られるなど、安心して自立生活が営めるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どうしたら分かるのか、一人一人の分かる力と、できる力を把握して、都度整えたり必要な物をそろえるようにしているが、混乱が生じた時には、丁寧に繰り返し説明したり、何が原因なのかを探り、相談し、手立てを考えるようにしている。		